

集中治療部

1 構成員

	平成 14 年 3 月 31 日現在
教授	0 人
助教授	0 人
講師（うち病院籍）	1 人（ 1 人）
助手（うち病院籍）	2 人（ 2 人）
医員	2 人
研修医	0 人
特別研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人（ 人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技官（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	0 人
合 計	6 人

2 教官の異動状況

- 土井 松幸（講師）（期間中現職）
 望月 利昭（助手）（期間中現職）
 向井 正明（助手）（H13. 5. 31 ～ H13. 6. 1）
 杉 敏彦（助手）（H13. 6. 1 から現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 13 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4 編（3 編）
そのインパクトファクターの合計	3.44
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0 編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1 編（1 編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2 編（2 編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編（ 編）
そのインパクトファクターの合計	0
(6) 国際学会発表数	1 編

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 土井松幸 (2001) 聴性誘発電位 (Auditory Evoked Potentials) による麻酔深度モニタリング. 日本臨床麻酔学会誌 21 : 83-85

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Kurita T., Doi M., Katoh T., Sano H, Sato S., Mantzaridis H., Kenny G.N.C. (2001) Auditory evoked potential index predicts the depth of sedation and movement in response to skin incision during sevoflurane anesthesia. Anesthesiology 95 : 364-370
2. 松尾美佳, 吉原いづみ, 鈴木裕子, 飯田芳子, 土井松幸 (2001) オゾン水での手洗いの検討. ICU と CCU 25 : 137-140
3. 小林俊司, 木倉睦人, 鈴木明, 土井松幸, 尾藤博道, 佐藤重仁 (2001) 体外循環前後における炎症反応および凝固線溶系マーカーの変動. 臨床麻酔 25 : 1077-1082
インパクトファクターの小計 [3.44]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 土井松幸 (2001) 聴性誘発電位 (AEP) を用いた中枢モニターも生きている！. LiSA 8 : 798-803

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 土井松幸 (2001) 麻酔深度の判定法. [麻酔の How to 技術編 p. 178-179] 克誠堂出版
2. 土井松幸 (2001) 麻酔深度と術中覚醒. [土井松幸編 術中覚醒 p. 17-28] 真興交易株式会社

医書出版部

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(6) 国際学会発表

1. Doi M., Morita K., Sato S., Mantzaridis ., Kenny G.N.C. (2001) The combination of AEPex and BIS improves accuracy to detect awareness during propofol anaesthesia. 12th European Society for Computing and Technology in Anaesthesia and Intensive Care. October, Budapest, Hungary

4 特許等の出願状況

	平成 13 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 13 年度
(1) 文部科学省科学研究費	1 件 (60 万円)
(2) 厚生科学研究費	0 件 (万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (万円)
(4) 財団助成金	0 件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件 (万円)

(1) 文部科学省科学研究費

土井松幸（代表者）基盤研究（c）（2）皮質脳波と聴性誘発電位を入力信号とする鎮静薬、鎮痛薬の自動投与システムの開発

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	平成 13 年度
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件
(2) 国際・国内シンポジウム発表数	1 件
(3) 学会座長回数	0 件
(4) 学会開催回数	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件

(2) 国際・国内シンポジウム発表

土井松幸 (2001) ワークショップ「21 世紀のモニタリング：心拍出量測定はどうか？」
LiDCO を用いた CO 測定. 第 21 回日本臨床麻酔学会大会 10 月, 横浜

8 学術雑誌の編集への貢献

	平成 13 年度
学術雑誌編集数	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 13 年度
(1) 国際共同研究	1 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

(1) 国際共同研究

Gavin NC Kenny (グラスゴー大学)

10 産学共同研究

	平成 13 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞 (学会賞等)

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 皮質脳波, 聴性誘発電位を解析することにより実時間で, 鎮痛度, 鎮静度を定量できるモニタの開発を目的とする。皮質脳波の指標として脳波をパワースpektral解析して得られる指標と Bispectral Index を用い, 聴性誘発電位の指標としては英国グラスゴー大学と共同開発中の Auditory Evoked Potential Index を用いている。これらの指標に対する鎮静薬や鎮痛薬の効果, 手術などの医療侵襲の影響を臨床症例を対象に解析し, その結果を学会報告や論文として発表してきた。これまでの成果を発展させ脳波を入力信号としたクローズドループコントロールシステムによる鎮痛薬, 鎮静薬の自動投与装置を開発する計画である。

研究担当者 土井松幸

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 聴性誘発電位による鎮痛，鎮静レベルの評価を試みている施設は他にヨーロッパの2施設のみである。皮質脳波とは異なった中枢神経の活動情報を得ることが可能であり，その情報は臨床的に有意義であるので，今後日常の臨床症例に使用するモニタとして発展していくことが期待される。

15 新聞，雑誌等による報道